

7=木浦奈津子〈無題〉2021年 © Natsuko Kiura, courtesy of the artist
 8=エヴァン・ロス〈あなたが生まれてから〉2023年/
 展示風景:「あなたが生まれてから」ジャクソンビル現代美術館、2019年
 © Evan Roth, courtesy of the MOCA Jacksonville. Photo by Doug Eng
 9=井田大介〈誰が為に鐘は鳴る〉2021年 © Daisuke Ida, courtesy of the artist
 1=〈ミッショント完了:ペランシージ〉2019年/ジョルジ・ガゴ・ガゴシツエ、
 ヒト・シュタイエル、ミロス・トラキロヴィチの共同制作/
 展示風景:「ヒト・シュタイエル——データの海」国立現代美術館 (MMCA)、2022年/
 Courtesy of the artists; Andrew Kreps Gallery, New York; Esther Schipper, Berlin.
 Photo by HONG Cheolki. Image courtesy of National Museum Modern and
 Contemporary Art, Korea 2=地主麻衣子〈遠いデュエット〉2016年
 © Maiko Jinushi, courtesy of HAGIWARA PROJECTS
 3=ティナ・エングホフ〈心当たりあるご親族へ——男性、1922年生まれ、自宅にて死去、
 2003年5月23日発見〉2002-2004年 © Tina Enghoff, courtesy of the artist

7

8

2

遠距離現在

Universal

/ Remote

井田大介 徐冰 トレヴァー・パグレン 地主麻衣子
 ジョルジ・ガゴ・ガゴシツエ+ヒト・シュタイエル+ミロス・トラキロヴィチ
 ティナ・エングホフ チャ・ソエミン エヴァン・ロス 木浦奈津子

Daisuke Ida Xu Bing Trevor Paglen Maiko Jinushi
 Giorgi Gago Gagoshidze+Hito Steyerl+Miloš Trakilović
 Tina Enghoff Jeamin Cha Evan Roth Natsuko Kiura

October 7 Sat. — December 17 Sun., 2023

Contemporary Art Museum, Kumamoto

2023年10月7日(土) — 12月17日(日)

熊本市現代美術館

開館時間: 10:00-20:00 (最終入場時間19:30) 休館日: 火曜日 観覧料: 一般 1,100円 (900円) シニア (65歳以上) 900円 (700円) 学生 (高校生以上) 800円 (500円) 中学生以下無料
 ※ () 内は前売/20名以上の団体/電車・バス1日乗車券等を提示の方 ※各種障害者手帳等をご提示の方とその付き添い1名は無料 ※前売券は10月6日(金)まで販売
 熊本市現代美術館 TEL: 096-278-7500 主催: 熊本市現代美術館 (熊本市、公益財団法人熊本市美術文化振興財団)、熊本日日新聞社 企画協力: 国立新美術館 後援: 熊本県、熊本県教育委員会、熊本県教育委員会、熊本県文化協会、熊本県美術家連盟、熊本国際観光コンベンション協会、NHK熊本放送局、J.COM熊本、エフエム熊本、FM791

遠距離現在

Universal / Remote

2023年10月7日(土)ー12月17日(日)

熊本市現代美術館

現代美術が観測した、個人と社会の距離感

20世紀後半以降、人、資本、情報の移動は世界規模に広がりました。2010年代から本格化したスマートデバイスの普及とともに、オーバーツーリズム、生産コストと環境負担の途上国への転嫁、情報格差など、グローバルな移動に伴う問題を抱えたまま、私たちは2020年代を迎えました。そして、2020年の国境のないパンデミックの発生により、人の移動が不意に停止されたものの、資本と情報の移動が止まる気配はありませんでした。かえって、資本や情報の本当の姿が見えてくるようになったと思えます。豊かさと貧しさ。強さと弱さ。私たちの世界のいびつな姿はますます露骨に、あらわになるようです。

展覧会タイトル「遠距離現在 Universal / Remote」は、ソーシャル・ディスタンシングや非対面コミュニケーションといったコロナ禍社会の条件はもちろんのこと、資本と情報が世界規模で移動する今世紀の状況を踏まえたものです。展示作品の多くは2020年以前のものですが、監視システムの過剰や精密なテクノロジーのもたらす滑稽さ、また人間の深い孤独を感じさせる作品群は、今の時代、あるいはポストコロナ時代の世界と真摯に向き合っているようにも見えます。本展は、全世界（pan- [全...、汎...の意、パンデミックなど]）の規模と、非対面の遠隔（remote [リモートワークなど]）という2つの視点から、グローバル資本主義やデジタル化社会といった現代美術における従来のテーマを新たに捉えなおすものです。「Pan- の規模で拡大し続ける社会」、「Remote化する個人」を軸に、このような社会的条件が形成されてきた今世紀の社会の在り方に取り組んだ8名1組の作品をご紹介します。

The society that came into being in the late 20th century, as people, capital, and information came to move on a global scale, entered a new phase in the 2010s along with the proliferation of smart devices, and issues such as excessive tourism, shifting of industry's production costs and environmental impact to developing nations, the digital divide and so forth were only worsening as the 2020s dawned. And while the outbreak of a pandemic that recognizes no borders suddenly put the brakes on the movement of people, the limitless flow of capital and information showed no sign of stopping. In fact, it seems we are seeing the true visage of capital and information systems for the first time. The rich and the poor, the powerful and the powerless: imbalances in our world are becoming more explicit all the time.

The exhibition title *Universal / Remote* references both social conditions specific to the pandemic, such as physical distancing and remote communication, and prevailing conditions in the 21st century more broadly, as capital and data flow freely on a global scale. Most of the works to be exhibited were produced before 2020, but in conveying comical aspects of the excesses of surveillance and high-tech networks, as well as the profound isolation of human beings, works in this exhibition seem to grapple head-on with the current era and with the post-COVID world. The exhibition is intended to reframe themes often explored in contemporary art thus far, such as global capitalism and digital society, from the two perspectives of worldwide scale (as expressed by the word "universal" as well as the prefix "pan-," which appears in many words including "pandemic") and non-face-to-face isolation (as in "remote" work, school and so forth). Consisting of two parts, "Constant Growth at Pan-Global Scale" and "The Remote Individual," the exhibition presents the works of 8 artists and a group of 3 artists that address the state of society in the 21st century as shaped by the conditions described above.

関連イベント

【オープニングトーク】

「遠距離現在 Universal / Remote」企画者によるキュレータートーク

日時：10月7日（土）14:00-15:30 | 場所：熊本市現代美術館 ホームギャラリー

登壇者：尹 志慧（国立新美術館特定研究員） | 定員：先着100名 ※事前申込不要

【ワークショップ】 見えないを埋める

ワークシートに取り組み、作品を鑑賞します

日時：① 10月21日（土）14:00-15:30 どなたでも

② 11月11日（土）14:00-15:30 中・高校生

③ 11月25日（土）14:00-15:30 中・高校生

場所：熊本市現代美術館 展覧会会場ほか | 講師：当館学芸員

定員：先着15名 ※事前申込不要

料金：要展覧会チケット ※中学生以下無料

○詳細と最新情報については当館ホームページまたはSNSをご確認ください

井田大介 | Daisuke Ida

1987年鳥取生まれ、東京在住。彫刻の古典に繰り返し立ち戻りながら、多様なメディアを用いて彫刻とは何かを問う。本展では3点の映像作品を再構成し、「飛行」「上昇」「落下」のメタファーでコロナ禍社会を可視化する。

徐冰（シュ・ビン） | Xu Bing

1955年中国生まれ、ニューヨークと北京を拠点に活動。初の映像作品《とんぼの眼》（81分）は、ネット上に公開されている監視カメラ映像、約11000時間分から編集された長編映画。※上映時間は当館ホームページをご確認ください。

トレヴァー・パグレン | Trevor Paglen

1974年アメリカ、メリーランド州生まれ。ベルリンとニューヨークを拠点に活動。地理情報と軍事機密、マシビジョン、監視と通信システム、AIによる自動生成イメージなどをテーマに、〈上陸地点〉〈海底ケーブル〉〈幻覚〉の3シリーズを展開。

ジョルジ・ガゴ・ガゴシツェ | Giorgi Gago Gagoshidze

ヒト・シュタイエル | Hito Steyerl

ミロス・トラキロヴィチ | Miloš Trakilović

シュタイエルはデジタル技術や資本主義といった社会的条件の中のイメージの生産と消費に関する映像作品を制作。《ミッショント完了：ペランシー》は3人の共同制作による。

地主麻衣子 | Maiko Jinushi

1984年神奈川生まれ、東京在住。映像、インスタレーション、パフォーマンス、テキストなどを組み合わせた自らの作品を「新しい種類の文学」と呼ぶ。チリの詩人・小説家のボラニョをめぐる《遠いデュエット》は5章からなる映像作品。

ティナ・エングホフ | Tina Enghoff

1957年デンマーク生まれ、コペンハーゲン在住。福祉国家の構造的暴力といった社会問題に焦点を当てたプロジェクトに取り組む。一人でこの世を去った人の部屋を撮影したシリーズ〈心当たりあるご親族へ〉では、都市に存在する孤独を問う。

チャ・ジェミン | Jeamin Cha

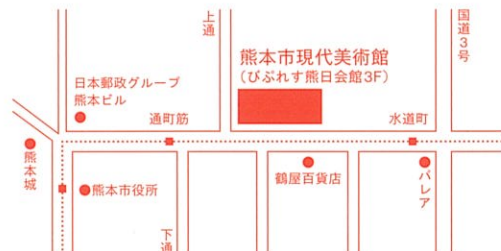
1986年韓国生まれ、ソウル在住。映像作品《迷宮とクロマキー》では、「ネット強国」を自負する韓国社会の片隅で、インフラを作る作業者の姿から、大量の情報を支える個人の労働が浮かび上がる。

エヴァン・ロス | Evan Roth

1978年アメリカ生まれ、ベルリンを拠点に活動。制作にハッキングの概念を持ち込む。自身のコンピューターのキャッシュに蓄積された画像を用いた没入型のインスタレーション《あなたが生まれてから》は、本人も知り得ない自画像を写す。

木浦奈津子 | Natsuko Kiura

1985年鹿児島生まれ、在住。一貫して風景、特に日常の景色を油絵で描き続ける。本展では、新作を含む大小様々な絵画を構成することで、新たな風景を広げる。



交通案内

- JR熊本駅から市電「健軍町」行（約15分）
- JR新水前寺駅から市電「熊本駅」「上熊本駅」行（約10分）
- 阿蘇くまもと空港からリムジンバス（約40分）
- いずれも「通町筋（とおりちょうすじ）」下車すぐ

熊本市現代美術館

CAMK | Contemporary Art Museum, Kumamoto

860-0845 熊本市中央区上通町2-3 びぶれす熊日会館3階

TEL 096-278-7500 | www.camk.jp

